

## ハーマンモデル

実践工房のEPの先生に教えていただいた。

ハーマンモデルに詳しい。

大脳を、右脳 - 左脳、新皮質 - 辺縁系の二軸による4つのエリアに分割し、どのエリアを活用しているかによって、自己認識、相互認識を行うというツール。

ハーマンモデルおよび

Whole Brain Model(Herrmann)によると、

左脳 / 新皮質 (A)

Logical(論理的), Analytical(分析的), Fact-Based(事実重視), Quantitative(数量的)

右脳 / 新皮質 (B)

Holistic(全体的), Intuitive(直観的), Integrating(統合的), Synthesizing(合成的)

左脳 / 辺縁系 (C)

Organized(系統だった), Sequential(順序だった), Planned(計画的), Detailed(詳細な)

右脳 / 辺縁系 (D)

Interpersonal(対人的), Feeling-Based(感じに基づく), Kinesthetic(運動感覚性の), Emotional(感情的)

もちろん、全部が得意(活用している)という人もいれば、

Dだけが得意という人もいる。

で、A ~ Dあるいは、全部得意な人が偉い、

とかではないということ。

大事なものは、何かを理解する場合にそれぞれの人が違う脳の使い方をしていて、

その理解する方法が違う人同士が議論すると、

議論が噛み合わなくて悲しいということ。

自己認識、相互認識の上で、議論相手にあった話し方を心掛けるということ。

相手を変えるのは難しいけど(不可能?)、自分が変わることは簡単(努力次第)。

なお、診断は、ファシリテータの人を通すと半額近くになるらしい。

# 私も診断してもらってないので、一度みてもらいたいような気もするけど、

# たんにゲーム感覚な興味なだけかも。

# 上記の内容を考えることの方が、はるかに重要な気がする。

## モデル

ハーマンモデルのように、モデルというと、

モデルは、xxx(の概念)によってyyyを定義(or説明)するモデル

のような説明が欲しくなってしまうけど、

ハーマンモデルによると、

ハーマンモデルとは、ノーベル賞受賞学者の大脳生理学理論を起源とする「脳」の研究をベースにした科学的ツールで「脳優勢度調査」とも呼ばれています。

だそうで、そういう説明はなかった。

英語で検索してみると、  
Whole Brain Model(Herrmann) には、

```
The Whole Brain Model from Ned Herrmann is a technique ~
```

という説明があった。  
うーん、私の モデルに対する説明の認識が間違っているのか？

Verilog ことはじめ

Verilog-HDL は、講義で教わったはずなのだけれども、  
ちょっと読めるくらい。ばりばり書けるようになるために、  
まずは環境構築から。  
シミュレーションは、Icarus Verilog で、波形は、GTKwave でみることに。  
手元の環境は Ubuntu Linux なので、

```
sudo aptitude install verilog  
sudo aptitude install gtkwave
```

で環境構築はおしまい。簡単。

使い方は、

```
iverilog -o hoge hove.v hoge_sim.v
```

とかしてシミュレーション対象となる hoge を生成する。  
ここで、hoge\_sim.v には、

```
$dumpfile("hoge.vcd");  
$dumpvars(0, hoge_sim);
```

とかダンプファイルを生成するための情報を書いておく。

```
vvp hoge
```

でシミュレーション。波形ファイル "hoge.vcd" が生成される。  
波形は GTKwave で確認。

```
gtkwave hoge.vcd
```